

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
山本隆一郎	臨床心理学概論	<p>この科目は2年生の通年必修科目であり、2021年度以前のカリキュラムの科目である（そのため、数名しか受講生はいない）。この授業は、膨大で広範な内容に関して学ぶことに加えて、各種臨床心理学モデルの背景にある人間観など、抽象度も高く、学生さんにとっては難しい科目の一つであると考えられる。</p> <p>このような背景の中で評価平均値は4.8点と高く、概ね満足度が高かったと考える。受講生の多くが一度単位習得ができずに受けている授業であると考えられるが、改めて受講をしたうえでポジティブな感想を頂けたことは嬉しく思う。</p> <p>毎年伝えていることではあるが、「臨床心理学」は、勉強するというより学問の探究を通じて人生を考える学問であると伝えてきたつもりである。復習をしたり日常を学んだことで説明しようとしたりすることはきっと人生の役に立つと信じて授業を行ってきた。授業が終わったから終わりではなく、学びを日常生活に生かしていただきたい。</p>
山本隆一郎	基礎ゼミナールB	<p>この科目は、1年生の必修科目であり、「江戸川大学の学生として」「人間心理学科の学生として」の学びの基礎を少人数制のゼミ形式で行う授業である。全体の平均値は4.7点と比較的高い評価を頂いた。</p> <p>以下は、毎年書いていることであるが、この類の少人数制の授業には多く認められることであるが、学生同士の相互作用やインフォーマルな場での交流の良好さという点が大きく評価に関係している。このような評価がいただけたことは、ゼミ全体の雰囲気依存していると考えられる。本授業は、2年制以降の心理学の学び方の基礎が中心でありその真価は次年度以降に認められてくると思う。授業で身につけたことを活かし、心理学の様々な領域の学びを深めてほしいと思う。</p>
山本隆一郎	心理演習	<p>この授業は、3年次配当の公認心理師科目であり、少人数制の演習科目である。これまでに講義等で学んできたことを踏まえ、1年間かけて、心理面接やアセスメント、地域連携に演習や心理相談センターの見学実習演習を通じた体験的学習を行ってきた。授業の全体的な評価は4.8点と高かった。特に授業への熱意、授業を通じて多くの知識が得られたという項目は4.9点と高かった。毎回のよう課題の提出があり、非常に負荷が高い科目であったがこのような評価を頂けたことは身の引き締まる思いである。演習の授業は、講義と異なり、それぞれの学生の主体的な参加が重要になる。意義のあるものであると思えば、個々の学生の努力によるものであろうと思う。また、共同担当者の尾花先生のスムーズで学生が考える仕掛けを工夫していただいたことも大きいと感じる。この学びの真価は、今後の心理実習や日々の自分の生活にどれほど生かされたかによって評価されるべきであると考えられる。今後も引き続き努力を続けていただきたい。</p>
山本隆一郎	専門ゼミナール I	<p>この授業は、3年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった（4.9点）。自由記述への回答は特になかったが、5.0点の項目も複数見られ、概して、満足度や各自が得られたと考えるものも多かったと考えられる。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。</p>
山本隆一郎	専門ゼミナール II	<p>この授業は、4年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった（5.0点）。専門ゼミナールでの情報の批判的検討や事象についての仮説の設定、実現可能な方法を考え問題解決に取り組む営みの真価は卒業後に確認できるのではないかと思う。卒業生の生活に役立つことを期待する。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
林 香織	メディアの法と倫理	<p>すべての項目で、全学平均を上回っていました。特に、「問6 この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」では、全学平均2.9に対して、本科目は3.3ポイントとなっており、授業前後の自己学習の評価が高くなっていました。アクティブラーニングとして、毎回、メディアに関する法律と現状に関するディスカッション時間を設けているので、その対策だったのかもしれませんが、学修効果があったと思います。コメントでも毎回のディスカッションに関するものが多く、「人との話し合いの方法を学ぶことができた」「有意義な時間だった」などを頂きました。本授業が目指すのは、意見を言うことよりもむしろ、様々な考え方があり、自分が正しいと思うことでも、ある方向から見れば正しいとは考えない人もいる、という多様性を学ぶということでした。今回のアンケート結果からは、そうした授業の目的を受講者の皆さんがシラバスの内容を含めて理解し、学ぶ姿勢を見せてくださったことが感じ取れ、とてもうれしかったです。今後もアクティブラーニングとしてもグループディスカッションを取り入れた授業を展開していこうと思います。ありがとうございました。</p>
林 香織	広告メディア論	<p>多くの項目で、全学平均を上回りましたが、「問23 総合的に考えて、この授業を後輩や他の人に薦めたい」は全学平均4.6に対し、4.1とやや低くなっていました。原因は「問6 この授業に関して予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」が、全学平均2.9に対し、本授業では3.8となっており、かなり授業前後の時間が大変だったのではないかと感じました。またコメントに「グループワークで、特定の人しか参加していなかった」ことが指摘されており、最終プレゼンをグループワークで作り上げることが非常に難しかったからではないかと思えます。演習実習のような授業とは違い、学年も学科も学部も全く異なる人の集団でチームを組み、何か一つのものを作り上げることは大変難しいものです。ただ、現実の社会では異質な人達の集団で企画立案することが日常です。今回の授業で、難しさを感じた人は、成長が望めますが、人任せにしてしまった人、意見を言わずに流された人は、今後注意が必要です。ただ一つ、言えることは、頑張った人とそうでない人は、評価者には伝わっているということ。成績評価時には、シラバスに明記したように、意欲的に参加できた人とそうでない人の区別はきっちり付けました。大変な授業を希望し、最後まで頑張りぬいた学生に、感謝します。</p>
林 香織	マス・コミュニケーション演習A	<p>すべての項目で、全学平均を上回っていました。特に「問12 教材・資料等の利用は授業の理解に役立った」は全学平均4.5に対し、4.9と高く評価されていました。授業内容のスライドは配布していないため、おそらく、プレゼンの評価コメントをフィードバックした資料や、今後の改善点をまとめた資料が評価されたのだと思います。他の受講生がどう評価したのか、他の授業ではあまり知ることのない他者の評価を重視するという授業意図がしっかり理解されたと思います。ありがとうございました。</p> <p>なお、「マス・コミュニケーション実習A」についてもほとんど同じ評価だったため、コメントは割愛します。これからも、この演習で学んだことを生かして、マスコミ学科の演習実習のみならず、様々な場所で活躍してもらいたいと思います。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
旭 彩希	乳児保育Ⅱ	<p>全体平均と比較して、1. 「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」以外は平均と同等もしくはそれ以上の評価をしていただきました。乳幼児の視点から乳幼児の発達・心情を理解することに重点を置いて、実践を多く取り入れながら授業展開をしてきたつもりでしたので、学生さんから「わかりやすかった」「PPTも見やすく理解につながった」「実践を交えての授業であり、わかりやすかった」とコメントをいただいたことは率直に嬉しく思います。授業初回にシラバスを丁寧に説明したつもりではいましたが、活用の仕方を今一度検討したいと思います。</p>
旭 彩希	学校インターンシップ実習Ⅱ	<p>全体平均と比較して平均と同等でしたが、0.2ポイントの差で評価が低い項目は、2. 「授業中の自分の受講態度（遅刻、私語、居眠り、携帯電話などのメールのやり取りをしないなど）はよかった」と6. 「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」、7. 「成績の評価基準を理解している」、13. 「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」、17. 「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に努めていた」でした。私語などで他の方の授業の妨げになる行為を注意していくことはもちろんですが、授業以外のことに気持ちが傾いていかないように、学生さんが主体的に授業に取り組む仕組みを考えて実践していくことに努めたいと思います。その一つとして、PPTなどを見やすく、伝わりやすいレイアウトにする工夫、授業内容と評価の関係について丁寧に説明を行う、授業のふりかえりにも時間をとって、予習・復習につながるような工夫を凝らすなど検討・実施していきたいと思います。自由記述では、「制作が楽しかった」「実習に向けての意識が高まった」「実習に活かしていきたい」など前向きなコメントを書いていただいていたことが、率直に嬉しく思います。学生の皆さんの実習の準備の一助になればと思います。</p>
旭 彩希	専門ゼミナール	<p>全体平均と比較して、すべての項目で評価が上回っていました。学生さん自身が希望して配属されたゼミナールであるためですが、その希望や期待に応えることができたのではないかと受け止め、少し安心しました。自ら興味関心をもった事柄に、ゼミの仲間と共に切磋琢磨しながら卒業研究へのつなげていけるように、今後もゼミ運営に努めていきたいと思います。そして専門性を高めていけるよう、ゼミ生の皆さん、一緒に学んでいきましょう。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
福田一彦	教育心理学	<p>ほとんどが全科目平均と同様な値ですが、問9「授業内容はわかりやすいものだった」の評価が低かったようです。「難しかった」という事なのかもしれませんが、それほど難しい内容をやっているとは思いません。「頑張ってる」というところでしょうか。以下、自由記述の内容を記します。一部、誤変換・ご入力のところは訂正しています。「難しい問題がたくさんあったが、動画が分かりやすかったので解くことができた。」「自分の学科では心理学を学ぶことはないので学ぶことが出来てとても良い経験になった」この授業は教職科目なので、実際に教職ついていた時に役に立つ（実践的というよりは基礎的な知識として）ような内容で構成しています。頑張ってる履修してください。</p>
福田一彦	心理学概論B	<p>全学平均よりも低かったのは、問5「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取り組みをおこなった」問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という学生さん側の努力が足りなかったという自己評価と、問17「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に務めていた」ですが、これは、オンデマンドの授業なので、そもそも「注意」は出来ず、学生さんも周囲の私語が気になる環境では授業を受けていないので、この設問自体が、オンデマンド授業に当てはまらない項目だと思います。</p> <p>次に、自由記述のコメントを記します。「心理学の基礎となる知識を網羅的に学べる授業で自分の興味関心について知ることができました」「とても分かりやすい授業だった」「楽しかったです。授業。」「1年で終わらせれば良いものを怠けて、また再履修することになりましたが、1年の頃は資料を見てある程度理解してテストだったが、今年はメモも自分なりに追加してみた。そしたら格段に理解力が違った。やはり、メモはすごいと思った。」最後のコメントは、「頑張れ！」と思いますが、同時に、ノートを取ること自体が、大学生（の一部と信じたい）にとって、すでに「当たり前」ではなくなっていることに、愕然とします。ノート取るのは当たり前なんだよ！これまで取って来なかったんだらうね。これからの人生でもノートくらいとりなさいよ。「頑張ってる！」</p>
福田一彦	専門ゼミナールⅠ及びⅡ	<p>専門ゼミナールⅠ（3年生）と専門ゼミナールⅡ（4年生）に関しては、まとめてコメントします。ゼミ生だけですし、評価が高くなるのは、まあ、当たり前だと思います。自由記述欄のコメントも感謝を記してくれています。まあ、ゼミで嫌がられたら最悪ですが・・・。</p> <p>専門ゼミナールⅠ（3年生）：「一年間ありがとうございました。来年もお願いします。」専門ゼミナールⅡ（4年生）：「福田ゼミ楽しかったです。」「ありがとうございました。」以上です。こちらも感謝しかありません。4年生にはコメントは届かないと思いますが、社会に出ても頑張ってもらいたいと思います。3年生はあと1年頑張ろう。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
水嶋陽子	高齢社会論	教員が私語の注意をしなかったのは、全般的にみて、受講態度の良いクラスであったため、と考えます。
吉田一康	企業と法Ⅱ	<p>全般的に、高い評価をして頂きましてありがとうございます。その中であって、設問13「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」が4.4と低かったことから、プロジェクターの画面をもっと見やすくする工夫が必要と考えました</p> <p>設問5「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取組をおこなった」が4.3で、設問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習はどの程度時間をかけましたか」の評価が2.7だった点については、引き続き、講義内で、次週のテーマの紹介や課題などを明示して、予習や復習を習慣づけなければならないと考えました。</p> <p>受講者に関しては、ほとんどの方が後ろに着席して、前列が空席だったのは寂しかったのですが、授業態度は、驚くほど静かで真面目なものでした。御礼申し上げます。</p>
田辺 江美子	法学概論	<p>法学概論を受講する学生は、1年生から4年生まで、また所属学科も多岐にわたることから、一人一人の学生にとっては、易しすぎる、あるいは難しすぎる等の感想があつて当然と思います。</p> <p>しかしながら、みなさんのアンケート結果では、質問6（予習や復習にどの程度時間をかけたか）の回答が2.5であつて、全学平均の2.9に及ばなかった以外の、すべての項目において、ほぼ全学平均または、平均を上回つたのは、私にとって、うれしいことでした。</p> <p>この結果は、学生のみなさんの努力が反映されていると確信しています。</p> <p>講義では、出席率もたいへんよく、さらに、ほぼ毎回のGoogleClassroomでのフィードバックの提出率も極めてよく、みなさんが参加し、主体的に授業に取り組み、難しい法学概論を自ら理解して下さったことを感謝いたします。</p> <p>特に、自由記述において、「法学と聞くと難しいイメージで、授業についていけるか心配でしたが、教科書はわかりやすく、中略、先生の説明も覚えやすく、授業を受けてよかったと思います。」という回答には、たいへん感謝いたします。</p> <p>新年度も、よりわかり易い講義を心掛け、みなさんと一緒に学んで行きたいと思います。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
尾花真梨子	児童心理学	<p>アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、人間の生涯発達過程における子どもの心身の発達と適応問題に焦点を当て、子どもの発達に対する多面的な理解とさまざまな支援方法について理解することが目的となっています。今年度は160名を超える多くの履修者がいましたが、全体の平均値が4.6であったことから、概ね満足度が高かったものと思われます。また、自由記述でも、「わかりやすい授業だった」「子どもの心理臨床や発達について深く知ることができてよかった」「自分のこれまでの人生を客観的に振り返ることができた」「かなり興味深い内容で、この講義を受けなければ理解できなかったであろう内容が多く、有意義な講義だと感じた」などのコメントをいただきました。ただし、「5.予習・復習、授業に関連する取り組み」や「6.予習・復習などにかかる時間」は、他と比べると低い値となっていました。皆さんが積極的に予習・復習に取り組めるように、今後も検討・工夫していきたいと思います。</p>
尾花真梨子	基礎ゼミナールB	<p>アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、心理学研究の基本的な考え方、研究の成果物である学術論文の分析的読み方や研究内容や成果の効果的なまとめ方としての図表の作成のルールや方法を体験的に学び、さらに、研究に用いられる各種ソフトウェアの使い方を体験し、2年次以降の専門的な心理学の学習や研究を進めていく上での技能を学習することを目的とした、少人数制のゼミナールです。全体の平均値が4.8であり、履修した皆さんにとって満足度の高い科目であったと考えられます。その一方で、「6.予習・復習などにかかる時間」は低い値となりました。科目の性質上、予習を行うことは難しいこともあるかもしれませんが、学習した内容がその後の皆さんの大学生活と関連することが多いので、ぜひ積極的に振り返りをしてください。</p>
尾花真梨子	専門ゼミナールⅠ	<p>アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、発達臨床心理学および学校臨床心理学領域への理解を深め、文献購読や研究計画書の立案を通して、自身の興味関心の整理や文献の批判的検討、4年次の卒業研究に向けた準備等を行うことを目的とした、少人数制のゼミナールです。プレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業構成であり、履修している皆さんにとって負荷のかかる科目であったとは思いますが、全体の平均値が4.8であり、満足度の高い科目であったと考えられます。その一方で、「6.予習・復習などにかかる時間」は人によってばらつきがあったようです。卒業研究に向けて、一人一人が主体的・積極的に取り組めるような工夫をしていきたいと思います。</p>
尾花真梨子	専門ゼミナールⅡ	<p>アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、発達臨床心理学および学校臨床心理学領域において設定した研究テーマに基づいて、文献の批判的検討による研究デザインの検討力、データ収集に必要なとされる知識や研究倫理の理解、データの解析に必要な知識や技術の習得、結果の解釈と考察に必要な知識と技能の習得、科学論文執筆に必要なライティングスキルやプレゼンテーション技能の習得を目的とした、少人数制のゼミナールです。それぞれが設定したテーマでの卒業論文の完成に向けて、多くの労力を割く必要がありましたが、全体の平均値が4.8であり満足度の高い科目であったと考えられます。また、自由記述でも、「自分に合ったゼミに入ることができて、とてもよかった」などのコメントがあり、ゼミでの研究活動が充実していたことがうかがえます。その一方で、「6.予習・復習などにかかる時間」は人によってばらつきがあったようです。皆さんが、何に・どう取り組めばよいかを明確に意識できるような工夫をしていきたいです。</p>